
黒を白に会

雲桜マル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒を白に会

【Nコード】

N9341M

【作者名】

雲桜マル

【あらすじ】

超短編なのであらすじの書きようがありません。

（前書き）

この小説は思いつきで書きました。今どきプライバシーの観点から
いつでも有り得ない話（発言）ですが、そこらへんはどうかお緩め
に。

では、東京本部前から中継でお伝えします。

はい。本部前です。

黒を白に会は全日本国民（国籍を取得している外国人も含む）の中から抽選で選んだ顔写真を明日の0時ちょうどに公表すると発表しました。人数は1000人程度だということです。

「僕も当たらないかなあー」

テレビを見ながら独りつぶやく勇夢。

1000人に選ばれて申告すれば、死ぬまで生活が保障される、という嘘のような話であるが、日本中がみな信じている。それは、黒を白に会が言うことだから。

ネットの掲示板では

「選ばれて申告しに行かない奴いるのか？」

「もし選ばれたら一生、働かずにすむ。何も望みさえしなければ」

「衣食住あればいいです」

「確認作業が大変そうだけど、そんなの苦にならない」と騒がれている。

テレビでも「もし、選ばれたら退職します」と宣言するアナウンサーやお天気キャスターが数人いるほどだ。

こうして『ワイドショー時間記録更新』とでもいえそうな一日は

「交番か署どっちがいい？」

「そりゃー署の方がいいだろ。おまえ、家から署までは車で10分ぐらいだったよなあ」

「おお、そうだ」

「じゃー署に行け！」

そして、一希は署に行った。

次の日、一希は会社に来なかった。

知り合いに聞いたところ1000人の判定は一発だったそうだ。

因みに、申告に行ったのは目標の300人を大きく上回る903人とのこと。目標人数を発表したのは公表が終わってからだった。

（後書き）

最後まで読んで頂きましてありがとうございます。
とても短い話でしたが何か感想などあれば宜しくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9341m/>

黒を白に会

2011年10月7日15時30分発行